

尊い命を奪われないために

宮城・福島で4・25安全問題を検証する集会



No. 2648
2013年5月20日
発行責任者 大沼
元編集責任者 武田



郡山集会で報告・説明する福島県支部小檜山委員長

地方本部は4月25日、仙台市民センターと郡山ビックアイにおいて、「安全問題を検証する日」として集会を開催した。

この取り組みは、8年前の05年4月25日に発生したJR西日本福知山線での脱線転覆事故（死者108人、負傷者562人）や同年12月のJR東日本羽越線での脱線転覆事故、翌06年1月のJR西日本伯備線での脱線転覆事故など立て続けに発生した重大鉄道事故に鑑み、06年から開催しているもの。

仙台集会は花京院スクエアで開催。全員が黙祷を捧げた後、地本大沼委員長は「二度と惨事を繰り返さないために、利用者や働く社員の側に立った安全対策や、支社内の事故について各職協の協力を得て調査・研究し、改善に向けた団体交渉を実施してきた。会社の言う『究極の安全』をスローガンだけに終わらせないよう、活動の強化を図る」とあいさつ。

職場報告として、運転協議会石塚議長は、東日本大震災後の教訓と今後の取り組みについて報告。震災後の新潟・福島豪雨（只見線の壊滅的打撃）により露呈した会社の危機管理の不十分さと具体的問題点の検証と、更には昨年暮れの12月7日に発生した三陸沖地震（M7.4）においても、11の経験が生かされず対策を講じない会社の姿勢を批判した。続いて電気協議会千葉議長は踏切鳴動保持時の問題点についての経過内容と分析、また飯山線での踏切事故対策として会社が示した指導文書について、

現場の声を基にこの間積み上げてきた議論と団交の結果、一部改善を得た成果について報告した。

また同日の郡山ビックアイでの集会では、電気協議会として小檜山氏（福島県支部委員長）が踏切鳴動保持時の取り扱いと安全問題について報告。小檜山氏は「会社の定めた取り扱い現場を省みない机上のルール。地域住民に大きな影響を及ぼしている。規制を振り切り無理に通行するなど触車事故がいつ発生してもおかしくない状況。通行を断ずることが本場に安全なのか」と問題提起し、また通行人等の不満解消の矛先として信通社員が受ける暴言・暴力の危険性による精神的ストレスの増大について訴えた。

続いて福島県支部放射線対策委員会小檜山対策委員長（工務協議会事務局長）は、放射線環境下における労働環境問題についてとしての取り組みを報告。小檜山氏は、「調査活動で明らかにした一つは増え続ける高線量産業廃棄物問題。廃棄物が処理施設や運搬会社から引取りを拒否される事象が多発し、JR事業所内で保管せざるを得ない事態となり、幹線では放置されている高線量廃棄物を国労が指摘し保管させてきた成果が

- 4・19 各地方本部書記長・業務部長会議（花巻）
- 4・20 同BRT視察
- 4・20 福祉問題学習会・慰労会
- 4・25 安全問題を検証する集会（仙台・郡山）
- 4・25 団交（ダイヤ改正積残し）

基本は鉄路の復活

BRTの視察へ

国労東日本本部と傘下の各地方本部は4月20日、大船渡線のBRT（バス高速輸送システム）に添乗し、その運行状況などを視察した。一行38人は前日花巻市内で開催された東日本本部主催による各地方本部書記長・業務部長会議を経て視察を行なったもの。

BRTとは被災した一部の区間の線路からレールを撤去・道路化し、専用道路としてバスを運行させ一般道と鉄道を繋ぐもの。

BRTとしては既に12年12月22日に気仙沼線が本格運用を始めており、今回一行が視察した大船渡線は13年3月2日からBRTの運行を開始した。大船渡線の気仙沼～盛岡間は2年2ヶ月前の東日本大震災による津波の被害で壊滅的な被害を受け不通となり、これまで路線バスへの振替輸送を行っていた。またJRはバス運行業務を岩手県交通（株）および株ミヤコーバスに委託して



鉄路が撤去されアスファルトが敷かれた

あった。また福島駅上屋工事で発生した廃棄物を洗浄施設を作り処理するなど会社も対応せざるを得ない状況である」と報告。また二点目として、ホットスポット対策や年間1mSv超の施設職場の実態から、「会社の責任において健康管理や被曝対策を求めなければならぬ」とし、支社と2回目の交渉を持つことが報告された。

集会では、2年が経過し、国や自治体の除染対策等が進まない中、風化している事実もあり、「反核・反原発運動」を当事者として発信し、労働環境問題を通して若手社員と共に考えながら組織強化・拡大に結びつけようと呼びかけられた。

視察に至った経緯は、安全問題に端を発し、BRT区間はトンネル区間もあるが、照明の有無や必要性の問題、また元踏切箇所の取り扱いなど不明な点が多くあったことが地本執行委員会で提起・議論されたことによる。

現に気仙沼線では専用道を横断しようとして軽乗用車が大型バスと衝突する事故を始め、衝突事故が6件発生している。地方本部はこの問題を「地本安全問題プロジェクト」での議論とすることを確認しその実態把握のための視察となった。

地本安全問題プロジェクトでは今後今回の視察の結果を踏まえ引き続き議論していくとしている。

またJRはこのBRTを仮復旧として位置づけているが、コストを理由に鉄路での復旧に踏み切っておらず、「今後の議論次第」と消極的だ。しかしバス代行輸送は第三セクターに転じる可能性もあり、その場合コスト問題などから廃線の恐れも危惧される。国労は地域住民の生活と安全を守る立場から、基本はあくまでも鉄道での復旧を求めている。

- 4・28 国労仙台家族会交流会
- 5・9 団交（総合車セ積残し・検修合理化見極め）
- 5・10 第9回地方執行委員会
- 5・12 春闘総括会議（春闘事務局総括会議）
- 5・15・16 本部会計監査



運動を支え続けてきた先輩方

誇りに満ちた鉄道人生

長年お疲れ様でした

地方本部は4月21・22日、松島町・ホテル大観荘において「福祉問題学習会及び慰労会」を開催した。会議には、13年度と14年度の退職予定者のうち、既に昨年参加した対象者を除いた23人が参加し、退職後の諸制度等について学習した。

第二部の慰労会では、40余年に亘る鉄道人生で苦楽を共にした仲間との語らいが尽きることなく続いていた。



※参加された皆さん

(敬称略・順不同)

- 鈴木 寿弘 ○高田 善雄
- 長沢 勝利 ○熱海 寿
- 草野 白 ○千葉 正彦
- 菊池 繁 ○柳沼 幸夫
- 我妻美津男 ○伊藤 英雄
- 鈴木 浩次 ○原 敏教
- 遠山 政孝 ○折笠 浩二
- 舟 修 ○大川 原邦幸
- 橋本 昭二 ○小林 捨三
- 長沢 善喜 ○渡辺 幸夫
- 金田 誠 ○滝田 隆幸
- 森本 重隆

お知らせ

- エルダー・嘱託組合員交流会
日時 5月26日(日) 13時
会場 仙台市・花京院スクエア15階
- アスベスト問題学習会
日時 6月8日(土) 13時
会場 郡山市小原田公民館
- 地本組織対策会議
日時 6月15日(土) 13時
会場 仙台市・福祉プラザ

貨物署名集約に全力を

JR貨物の田村社長は、昨年度末に現場長・指定職に對しての訓示で「賃金抑制に踏み切る」と発言しました。

また平成25年度入社の新入社員に對して同様の趣旨の手紙を入社式目前の3月に送付したことも明らかになっています。賃金は労働条件の最たるものであり、労働組合として断じて認められない発言です。

その一方で、こうした不当な言動に對し、JR貨物労組は「一般社員の賃金は10%カット、期末手当の年額は2・5ヶ月」とオルグしていたことも発覚しています。

なぜ労働組合に説明や交渉しない発言です。

また賃金を一方的に抑制・削除することは断じて許されるものではなく、団体・個人署名の取り組みも行なっています(署名用紙には会社名・職場名とありますが、家族の方もお願いします)。

地本集約は6月4日となっていますので、各級機関には更なる取組みの強化を要請します。

遺族支援募金の要請

故 高橋和彦氏

国労仙台総合車両所支部台車分会の元副会長であった高橋和彦さんが今年3月31日に4月の退職を目前にして急逝されました。

高橋さんはこの間、機関役員として活躍する一方で、D51合唱団の団長を務め、「1047名の解雇撤回」の闘いを始めとして、歌声を通じて私たちの勇を鼓舞し続けてくれました。

国労仙台総行動で披露されたあの魂を揺さぶる歌声

編集後記

▼東北工務所分会のろばたNo.977号(13年4月18日付)に国労盛岡工務所分会の委員長をされた堀田和久氏から寄せられたメッセージが紹介されていたので紹介したい。

▼国労盛岡分会の再開

―団結の心は永遠に―
○先日古い友人である石川幸喜さんをお願いして、震災現場を案内してもらった。水戸から高田へ、早春の連なる山なみ、遠くに室根山、大東町の武家屋敷を思わせる白壁の門構え、囲堀など永い歴史を感じさせた。

高田松原は昭和38年夏、国労工務局分会、青年部海水浴した思い出の場所です。

○一昨年の盛建会(盛工OB会)では昭和58年当時の国労分会の委員長(堀田)、副委員長(阿部)、書記長(松森)、青年部長(小原)が集まった。分割・民営前夜の激動期の面々である。私達の結び合いは強く、その絆はしっかりと続いている。

○30年経っても色あせぬ、したたるような友情と信義が私達にはある。

▼最後の一文に胸を打たれた。そこには正々堂々と精一杯闘い抜いた男たちの真の友情に溢れていた。

▼振り返れば分割・民営化前後、我々は波高く嵐の吹き荒れる海を手漕ぎ船で航海中に戦艦に取り囲まれたような状態にあった。まさに四面楚歌。

しかし我々は歯を食いしばり、手を携えて櫓を漕ぎ続け船を前に進めた。闘い続けたからこそ組織は残った。

▼そして現在。10年、20年後の自分に「したたるような友情と信義」はあるだろうか。

退職のお知らせ

4月30日付

佐藤 浩二さん
東北自動車支部
(JRバス福島)

星 直江さん
会津若松地区
(テクノ若松)

猪股 秀一さん
郡山駅連合
(会津鉄道)

佐々木 伸介さん
仙総連

○エルダー退職

斎藤 健さん
新庄連合
(テクノ新庄)

荒木 博明さん
仙台保線区
(仙建工業)

長い間お疲れ様でした